



学校だより

狛江で育ち狛江一中で学んだことを
生涯の誇りにできる生徒の育成
3月号 令和3年3月1日

狛江市立 狛江第一中学校

狛江市和泉本町 2-15-1
TEL 03 (3480) 0121

年度の終わりに

校長 吉田 知弘

私と小鳥と鈴と

私と小鳥と鈴と
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない
私がかからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ
鈴と小鳥とそれから私
みんなちがつてみない

人には得意なこともあれば不得意なこともあります。「国語は得意だけれど数学はちょっと苦手」。あるいは、同じ体育でも「水泳は得意ではないけれど球技なら任せて」という人もいます。クラスや学年全体で「全員が得意」という分野はなかなか見つけにくいものです。一人一人、得意なことや不得意なこと、また、好きなことや興味のあることなどは違って当たり前のはずです。

冒頭の詩は、金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」です。この詩は、「それぞれの特色の中に生きているすばらしさ」を教えてくれています。本校の生徒も一人一人が自分の人生ではもちろん、日常生活の中でもいろいろな場面で主人公になります。今の場面では他の誰かが主人公であっても、いつか必ず自分が主人公になるときがあるはずです。

3月に入り、いよいよ卒業式・修了式のシーズンを迎えました。3年生は中学校生活3年間のうち、約半分の期間でコロナの影響を受け、我慢の生活を続けてきました。しかし、そういった制約の多い中でも立派に最上級生として振る舞い、仲間との友情をはぐくみ、そして狛江一中の新たな伝統も築いてくれました。皆さんもこの3年間で、そしてその間の自分たちの成長に自信をもって立派に巣立っていった欲しいと思います。中学卒業後も自分自身をかけがえのない存在として誇りに思い、自分の個性や長所を大切に、自分の人生の主人公として自分らしい生き方をしてください。卒業生一人一人に幸多かれと心から願っています。

1・2年生の皆さんもまもなく進級を迎えます。今年度は自分たちの成長を実感できる場面はあまり多くなかったかもしれませんが、一人一人の頑張りはご家族や仲間、そして先生方など多くの人たちがきちんと見てくれています。自分の個性に自信をもって、新年度への期待や目標を掲げて欲しいと思います。

最後になりましたが、今年度1年間、日々の教育活動はもちろん、生徒たちの健やかな成長を支えてくださった地域、保護者の皆様方の温かなご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

1月21日(木) 1組・1年生福祉の日

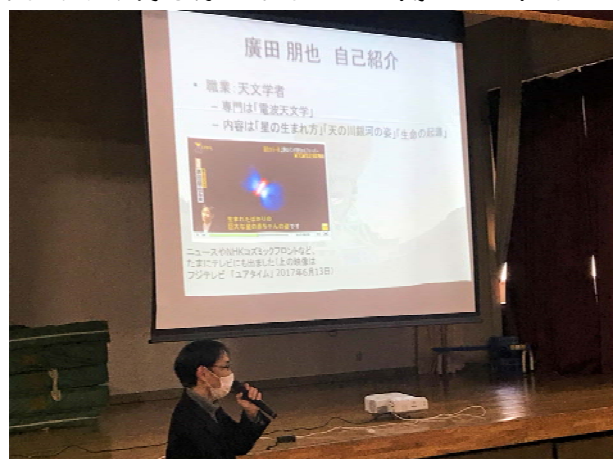
毎年行っている福祉体験の日。今年度も外部講師をお呼びして福祉について学びました。午前中は、認知症サポーター養成講座(講師 正吉苑 大井さん)と視力障がい体験講座(講師 こまえくぼ白石さん)を午後はパラアスリート(車いすバスケットボール(講師・三元大輔 選手))による講演、実演、体験を行いました。高齢者、障がい者、認知症の方への理解を深め、人のために役立つにはどうすれば良いかを考えることができた一日となりました。



2月2日(火) 1組・1, 2年生ふれあい天文学

ふれあい天文学は国立天文台の天文学者が全国各地の小中学校で授業を行う取り組みです。身近な宇宙の話から、考えるだけで気が遠くなりそうな銀河系やブラックホールの話まで、沢山の話を伺うことができました。日本の天文学の第一線で活躍をされている廣田 朋也さん(国立天文台水沢 VLBI 観測所)のお話を通して宇宙や自然への興味関心を高めることができました。以下2年生の生徒の感想です。

- ・天文学者って本当にいるのだなと思った。私の人生設計の中に「天文学者」が追加されました。
- ・何十億個も銀河があるなら宇宙人がいそう。話のスケールが大きすぎていろいろな悩みがどうでもよくなった。
- ・私が楽しみにしていたのは、内容はもちろんですが、研究者の人の言葉はどう夢を語ってくれるかだったのですが、想像以上に言葉一つ一つが夢にあふれていて、ワクワクがあふれていました。特に、“宇宙に出たから地球の形が分かった”。これが“外に出なくちゃ何も分からない”に聞こえて、なんか頑張ろうと思いました！



※3月2日(火)は3年生が、3月6日(土)は全校生徒が弁当持参となります。どうぞよろしくお願いします。